

## 6月ようちえんだより

園庭で遊ぶ子どもたちに降り注ぐ太陽の光は、一人ひとりを輝かせて、とてもまぶしく感じます。夏の訪れを感じるこの季節、園庭はとてものにぎやかです。木々のみどりはいっぱいに広がり、草花は花を咲かせ、たくさんの生き物や虫たちが動き回っています。その中、園庭の端々にかがみこんで、だんご虫や蟻、はさみ虫などいろいろな生き物に夢中になって遊んでいる子どもたちがたくさんいます。生命の不思議や驚きを感じ、神の御業を体感しているようにも見えます。

子どもの感覚と大人の感覚は明らかに違います。したがって、大人と子どもの五感の働きにおいても感じているものは大きく異なるのではないのでしょうか。中でも「感じる力」は子どもの頃にはたくさんあったのに、多くの大人は無くしてしまっているようです。それはもしかしたら大人になるために必要なことなのかもしれませんが、何か大切なものを犠牲にして大人になっている感否めません。子どもと大人の感覚の違いは、子どもの感覚は外部からの刺激をそのままダイレクトに受け取るのに比べ、大人は予め予測される刺激に対する情報があるので、意識や知識によって感じる感覚が違ってくるようです。このように大人はすべての刺激をフィルターを通して受け止めるので、同じ刺激であってもありのままに見え、ありのままに聞こえているわけではないということです。要するに大人になると、すべてをありのままに受け入れることが難しいということです。そしてさまざまな場面において自分自身が子どもの頃に大切に感じていたにもかかわらず、子どもが感じている感覚を想像することができなくなり「いつまでそんなことしているの」「いい加減にしないさい」「なに考えてるの」などのように子どもの興味に関して否定的な言葉を使って対応してしまうことがあるのです。

人間は自然の一部として生まれながら、大人になるにつれて自然から離れてしまい、見えるものが見えず、聞こえるものが聞こえなくなってしまうように感じます。飽きることなく生き物とたわむれ遊ぶ子どもたちの姿は最も大切にされなければならないことです。多くの大人たちがそのことを忘れてしまっているのではないのでしょうか。そんな子どものあるがままの姿を喜び愛することが出来る大人でありたいと思いますし、自然の恩恵に喜びと感謝をもって過せる人間でありたいと思います。

### 年主題 『愛されて育つ』

<年主題聖句> 「あなたがたは神に愛されている子供です。」  
(エフェソの信徒への手紙5章1節)

### 6月主題 『動き出す』

<月主題聖句> 「これは主の御業、わたしたちの目には驚くべきこと」  
(詩編118編23節)